

## トマト栽培で黄化葉巻病や葉かび病の防除を徹底しましょう

### 1. トマト黄化葉巻病

トマト黄化葉巻病は、微小害虫タバココナジラミ類が媒介するウイルス病です。微小害虫は、圃場内での発生量を十分に確認することが難しいことから、耕種的や物理的防除と薬剤防除を組み合わせた総合防除で対応する必要があります。

#### <防除のポイント>

タバココナジラミ類を防除する基本として、施設内に虫を①入れない、②そこで増殖させないことが重要です。①の施設に入れない対策としては、出入口や天窗・側窓など施設の開口部に防虫ネット（目合い0.4mm以下）を設置します。また、害虫の飛来源、ウイルスの保毒源となる施設内や周辺の雑草や野良生えトマトは、常に除草や抜き取りを徹底してください。なお、施設内へは栽培トマト以外の植物などを搬入、栽培しないことが重要で、これらの植物とともに害虫を持ち込む危険性があります。

次に、②の施設内でタバココナジラミ類やウイルスを増殖させない対策としては、育苗期や定植時に粒剤や灌注剤を処理し、さらに栽培中はトマトを注意深く観察して早期発見に努め、早期防除や発病株の処分を徹底します。また、施設内に黄色の粘着トラップを設置してコナジラミ類を誘引し、密度の抑制を図るほか、薬剤適期防除の目安にします。薬剤は下記の表1を参考に作期全般における総使用回数を考慮して選択し、また抵抗性害虫の出現を防ぐためローテーション散布が必要です。

さらに、③栽培終了後の対策としては、施設内の害虫が逃げ出す前にハウス内の蒸し込み処理（営農ニュース第2967号6月24日発行を参照）などで死滅させて、施設周辺におけるコナジラミ類などの密度低下を図ることが必要です。

表1 トマト、ミニトマトにおけるコナジラミ類の主な防除薬剤 (令和4年7月6日現在)

薬剤名	対象作物		使用量または希釈倍率	使用時期/使用回数	分類
	トマト	ミニトマト			
ベストガード粒剤	○	○	5g/育苗培土10 混和	播種時または鉢上げ時/1回	4A
			または 50g/セルトレイ等 ※ に散布	育苗期後半/1回	
			または 1~2g/株 株元処理	育苗期/1回	
			または 1~2g/株 植穴処理土壌混和	定植時/1回	
ベリマークSC	○	○	25ml/400株(400株あたりの薬量を水10~20ℓで希釈し、1株あたり25~50mlづつ) 灌注	育苗期後半~定植当日/1回	28
グレースシア乳剤	○	○	2,000倍	収穫前日まで/2回以内	30
ディアナSC	○	○	2,500倍	収穫前日まで/2回以内	5
アニキ乳剤	○	○	1,000~2,000倍	収穫前日まで/3回以内	6
コルト顆粒水和剤	○	○	4,000倍	収穫前日まで/3回以内	9B
コロマイト乳剤	○	○	1,500倍	収穫前日まで/2回以内	6

注) 1. ※印は、セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60cm・使用土壌約1.5~4ℓ)を略しました。

2. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

### 2. 葉かび病

葉かび病は施設内が多湿の環境が続けば発生し、一度多発生してしまうとなかなか薬剤による防除効果が上がりにくい病害です。このため、予防に努めるとともに、施設内をよく観察し、発病の早期発見と発病初期の防除を徹底してください。

#### <防除のポイント>

- 1) 栽培中は、適宜な整枝、剪定による採光や通風の確保、適度な灌水や追肥など、適切な肥培管理に努めます。
- 2) 施設内の多湿条件が続くと、急速に発生します。換気等により施設内の過湿を避けるよう努めてください。
- 3) 既存の抵抗性品種でも、新たなレースに遭遇すると発病するため、耕種的や薬剤防除を組み合わせた対策が必要です。

表2 トマトまたはミニトマト葉かび病の主な防除薬剤 (令和4年7月6日現在)

対象作物 薬剤名	ト マ ト		ミ ニ ト マ ト		分類
	希釈倍率	使用時期/使用回数	希釈倍率	使用時期/使用回数	
アフエツフロアブル	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	2,000倍	収穫前日まで/3回以内	7
ベルコートフロアブル	2,000~4,000倍	収穫前日まで/3回以内	4,000倍	収穫前日まで/2回以内	M7
トリフミン水和剤	3,000~5,000倍	収穫前日まで/5回以内	3,000~5,000倍	収穫前日まで/5回以内	3
ダコニール1000	1,000倍	収穫前日まで/4回以内	1,000倍	収穫前日まで/2回以内	M5
ファンタジスタ顆粒水和剤	2,000~3,000倍	収穫前日まで/3回以内	2,000~3,000倍	収穫前日まで/3回以内	11
ゲッター水和剤	1,000~1,500倍	収穫前日まで/5回以内	1,500倍	収穫前日まで/3回以内	1と10

注) 表2の分類欄には、FRACコードを記載しました。同一分類(コード)は作用点が同じなので、連用は避けてください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA 全農いばらき ホームページでもご覧になれます。